

2級損害保険登録鑑定人

簿記会計

試験問題用紙

(2019年7月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないで下さい。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認して下さい。解答用紙がない場合は直ちに申し出て下さい。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入して下さい。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークして下さい。記入漏れや間違った受験番号を記入すると採点できませんので、解答した内容はすべて無効(得点なし)となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出して下さい(問題用紙は持ち帰って結構です)。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は解答用紙の該当する問題の解答欄に解答を楷書で記入して下さい。
6. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用して下さい。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外(万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等)は使用不可です。
7. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消して下さい(消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります)。プラスチック製の消しゴム以外(修正液等)は使用不可です。
8. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないで下さい。
9. 試験時間は正味50分です。
10. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
11. 試験時間中の私語は禁止します。
12. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまって下さい。
13. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいて下さい。
14. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いて下さい。
15. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出て下さい。

一般社団法人 日本損害保険協会

【問題 1】

次の 1～5 の取引の仕訳を解答用紙に記入して下さい（金額の単位：円）。

なお、勘定科目は下記の勘定科目表から最も適当なものを選び、必要に応じて何度使用しても構いません。

- かねてA商店にB品を注文し、B品の船荷証券 800,000 円を受け取っていたが、本日これをC商店に 1,000,000 円で売り渡し、代金のうち 600,000 円は同店振出の小切手で受け取り、残額は月末に受け取ることにした。
- D商店から売掛金 500,000 円を同店振出しの小切手で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。ただし、当座借越勘定の残高が 400,000 円ある。
- 支店会計が独立しているE商店の本店は、決算の結果、支店が計上する当期純利益は 300,000 円であるとの報告を受け、これを承認した（本店の仕訳）。
- F商事株式会社は、次の条件で社債を発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この社債の発行に要した諸費用 500,000 円は小切手を振り出して支払った。

発行条件

額面総額：7,000,000 円

払込金額：額面 100 円につき 98 円

償還期限：8 年

利率：年 2.5%

利払い：年 2 回

- G商店は、決算にあたり納付すべき消費税の額を計上した。ただし、仮払消費税勘定の残高は 80,000 円であり、仮受消費税勘定の残高は 120,000 円である。

《勘定科目表》

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形
売	掛	金	繰	越	商	未	着	商	品
積	送	品	未	収	金	仮	払	金	
仮	払	消	費	支	払	買	掛	金	
仮	受	消	費	未	払	消	費	税	
社		債		売		有	価	証	券
仕		入		社	債	社	債	利	息
本		店		支		損		益	

【問題 2】

次の 1～3 の問いについて解答して下さい。

1. 次の文の に入る適切な語を解答用紙に記入して下さい。

仕訳帳や総勘定元帳のように、簿記の仕組みの上で欠くことができない帳簿を という。これに対し、当座預金出納帳や商品有高帳のように特定の取引や勘定の明細が記入される帳簿を補助簿という。

2. 次の文の に入る適切な金額を解答用紙に記入して下さい。

H 商店（個人企業）の期首の資本は 320,000 円であった。また、当期における資本の追加元入れは 30,000 円であり、資本の引出しは 50,000 円であったとき、期末の資本は 円である。ただし、当期の費用総額は 900,000 円であり、収益総額は 1,000,000 円であった。

3. 次の J 商店の 7 月 20 日の取引から下記の出金伝票を起票する場合、科目欄 ① に入る勘定科目を解答用紙に記入して下さい。

取 引

7 月 20 日 KK 事務機店より 7 月 8 日に買い入れていたパーソナルコンピュータの代金 350,000 円を現金で支払った。ただし、伝票番号は 201 とする。

出 金 伝 票						
令和○年 月 日				No. _____		
科目	①	支払先				
摘 要			金 額			
	パーソナルコンピュータ代金		3	5	0	0
	合 計		3	5	0	0

【問題3】

次の精算表の①～⑮にあてはまる金額を解答用紙に記入して下さい。

精 算 表

〇〇年1月1日～〇〇年12月31日

単位:円

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	300,000							
当座預金	900,000						⑥	
受取手形	700,000							
売掛金	900,000						⑦	
有価証券	2,000,000						⑧	
繰越商品	500,000						⑨	
備品	5,000,000							
支払手形		600,000						
買掛金		700,000						
借入金		1,000,000						
仮受金		100,000	①					
貸倒引当金		20,000						⑩
減価償却累計額		3,000,000						⑪
資本金		4,000,000						
売上		6,700,000						
仕入	3,500,000				②			
給料	1,290,000							
支払家賃	300,000				③			
租税公課	220,000							
保険料	370,000				④			
消耗品費	40,000				⑤			
支払利息	10,000							
雑費	90,000							
	16,120,000	16,120,000						
貸倒引当金繰入								
減価償却費								
有価証券()								
消耗品							⑫	
()保険料							⑬	
()								⑭
当期純()								⑮

<付記事項>

1. 仮受金 100,000 円は、L 商店に対する売掛金の回収額であることが判明した。
2. M 商店に対する売掛金 200,000 円が、当店の当座預金口座に振り込まれていたが、記帳していなかった。

<決算整理事項>

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して 5 % の貸倒れを見積る。
2. 有価証券は 1 株 52,000 円に評価替えする。なお、この有価証券は N 商事株式会社発行の株式であり、当店は 40 株を保有している。
3. 期末商品棚卸高は 600,000 円であった。
なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 備品の減価償却を次のとおり行い、間接法によって記帳する。
取得原価：5,000,000 円 償却方法：定額法
残存価額： 0（零） 耐用年数：5 年
5. 消耗品の未使用高が 10,000 円あった。
6. 保険料のうち 120,000 円は、本年 10 月 1 日からの 1 年分を支払ったものであり、適正額を繰り延べ計上する。
7. 翌年 4 月 30 日に家賃 60,000 円を支払うことになっている。これは、本年 11 月 1 日からの半年分であり、適正額を見越し計上する。

< M E M O >

< M E M O >